

わが心の山 富士を語る その3
富士から眺める

巨象を足元から見ても、その大きさがわかりにくい。富士山も同様で、あの特徴的なフォルムは遠景として眺めていればこそのものである。富士吉田の町から見ると、全景も見えるし細かな刻みまで見えて、なかなかの眺めである。

駅前からスバルラインを走るバスに乗る。料金所を過ぎて有料道路に入ったあたりではまだ富士山は見えるが、いくつかのカーブを過ぎて高度を増していくに従って富士山はもう見えなくなる。見えなくなるのは当然だ、自分が富士山に居るのだから「自分の顔が見えない」と変わらない状態になる。

三合目を過ぎて山腹を巻くように登って行く頃になると、もう目の前の山肌以外には見えるものはなくなってしまふ。おまけに、下界から見ると「中腹に漂う美しい雲」は、何と霧であったり雨であったりする。これをもって、「やはり遠くから見るもの」と言う人もいる。



五合目まで来ると、もう頂は見上げるような角度に上がってしまう。そして、もはや全景はわかりようもなく、見上げた視野の範囲だけの山肌がわずかにしか見られない。

(左写真：スバルライン終点から見上げる)

スバルラインの駐車場からしばらく平坦な道を右回りに歩くと登り道が始まる。ここより下は針葉樹と灌木、見上げると少しばかりの針葉樹林が続いた後は火山礫の地肌が見えている。海拔 2500m という高さはそういう高さである。

初めて富士山に登ったのは 1965 年 10 月、冬山の基礎技術を学ぶのが目的の訓練登山だった。

2500mの高さから見下ろす雲海の上には奥秩父・北アルプス・八ヶ岳だけしか見えなかった。つまり、そのほかの山は雲より低いから見えないのだ。六合目までは岩礫とかすかな氷雪で歩くのに苦労はなかったが、七合目まで来たら様相は急変し、針葉樹林は遙か下の方に去って行き、雪と氷だけの世界が始まった。ピッケルは軽くさした位では数ミリほどしかささらないし、アイゼンも心して踏み込まないと雪面を掴んではくれない。斜面に空いた小さな穴を覗くとコバルト色の蒼氷の世界が見えた。

真っ白いものばかりを睨みながら登り、背後から太陽の強い攻撃を受けるので、かなりの眩しさになる。ゴーグルをつけていないと斜面の立体感がわかりにくい上に、雪盲になってしまう。

冬の富士登山は凍結しているため、登山道をジグザグに登る必要はない。厳しい傾斜以外は一直線に登って行けば良いので距離的にはかなり楽だが、アイゼンを聞かせて直登する足首はV字状に曲がって、かなりの負担がかかる。八合目(3350m)まで来ると巨大な雪と氷の斜面の真ただ中に立った状態になり、大自然の中に置かれた一人の人間の小ささをひしひしと感じる。酸素が少なくなっているため、わずかな登りでも息が上がってしまい、斜面に差し込んだピッケルを頼りに立ったままで呼吸調整をする。その時に股ぐらを通して見える景色は「遠々と下る氷の大斜面の彼方に山麓の大きな湖達」。うっかりすれば 1000mの高度差を一気に滑落してしまうので、美しい景色に感動して写真撮影をしている訳には行かない。

九合目まで来ると、吉田口頂上の鳥居も黒い屏風岩も見えるようになり、ゴール間近を感じさせる。(右写真：九合目付近から山頂を見上げる)



五合目から所要時間 3 時間半ほどで吉田口山頂に到達。

普通の登山では頂上を踏めばほっと一段落ということになるが、富士山特に冬の富士山の場合は、これから

が本番と言うことになる。広く長い斜面を、アイゼンを効かせてじっくりと下らなければならない。誤ってアイゼンの歯が反対側の足のオーバーシューズの端にでも引っ掛ってしまえば、一塊の落石と同じように1000m以上の落差を転がり落ちることになる。ピッケルを構えて、何歩か先に視点を置きながら、アイゼンのきしみ音を確かめるように下って行く。切れてきた雲海の合間に山中湖がキラキラ輝いているが、そんなことにかまってはられない。集中力を最大に高めて、言葉を選んで語るような足取りで下って行く。六合目あたりまで下って蒼氷ともお別れになると、解けた緊張感で体がふわーとなったような気がした。



1968年6月、初登山から二年半後に再び富士登山の機会を得た。氷の斜面は融雪の季節となり、初夏ならではの難しさもある登山となった。しかし厳冬期の厳しさとは異なり、六合目付近の雪面でリラックスした大休止もとることができた。紺碧の青空に白い雲、山中湖・河口湖などを見下ろす下山の途中で雪崩に巻き込まれたり、やはり写真を撮ることもできなかった。

富士登山は二度体験したが、富士山から見下ろす写真があまり残っていないのはこんな理由によるものである。

以上

<参考資料>

<http://www1.u-netsurf.ne.jp/~TKOB/mount052.PDF>

<http://www1.u-netsurf.ne.jp/~TKOB/mount109.PDF>